

日銀の視点

新型コロナウイルスの影響が和らぐ中、人流が活発化し、世の中の雰囲気は徐々に明るさを増しているように感じる。こうしたムードの中、わが家では、ゴールデンウィークに結城観光に訪れた。当地に着任して以降、わが国で20件余りしか登録されていないユネスコ無形文化遺産の一つである「(本場)結城紬」について、ぜひ現地で詳しく知りたいたいと思いつけていたためだ。幾つかある関係施設を興味深く拝見し、糸つむぎ、緋く

上野 淳 日銀水戸事務所長

結城での心満つる一日

腰でつり、その張力を調節するなど、職人さんの熟練を要する伝統的な技法が継承されている。

一方で、時代とともに、新たなデザインを取り入れたり、図案をパソコンで作成する

腰でつり、その張力を調節するクタイ、シヨール、財布なども作られている。

結城紬以外にも大いに楽しめた一日となった。ちょうど「結城秀康展」や「結城秀康シールラリー」が行われており、天下三名槍の一つという御手杵を模したものを持って街なかで写真を撮らせていた

くり、地機織りなど約40もの工程が昔ながらの手作業で行われていると知り、あらゆるものが自動化されつつある現代においてなお、これほどの手間がかけられていることに驚いた。織る工程では縦糸を

るようになるなど、変化も取り入れている。本場結城紬の良さを維持しながら、工法の工夫により、価格や色・デザイン面で、より身近に着られる商品も開発されている。さらに、着物だけではなく、ネ

も消費者の嗜好に合い価値が評価されているものは売れている」との声も聞かれる。結城紬は、今回実際に商品を目にしてみて、品質の高さとブランド力から、消費者に価値が理解・評価されるであろうと感じた。われわれ夫婦も、思わず小物を数点購入した。

だいたり、シールを集めながら名物の「ゆでまんじゅう」の食べ比べをしたりした。また、「見世蔵」という蔵造りの建物が残っている街のレトロな雰囲気が味わい深く、そうした建物を改装して営業している喫茶店では心落ち着くひとときを過ごした。さらに、地元酒造さんのお酒も購入した。

(今回は7月8日掲載)